

平成30年度自己評価結果公表シート

教育理念

- 心身共に調和のとれた『文化人』の育成
- 平和を愛し、世界の中で活躍する『国際人』の育成
- 自然と共生し、地球に生きる『自然人』の育成
- 様々な「もの」や「こと」に興味関心を持ち学び続ける『学人』の育成

教育目標

- ・ 自分のことを大切な存在として愛することができ、他の人の事も尊重し、一緒に生きていける人に
- ・ 伝統や文化を大切にし、世界で活躍できる人に
- ・ 自然の営みに畏敬の念を抱き、生かされている自分に感謝し、自然と共存しながら生きていける人に
- ・ やりたいことを追求し、自分らしく心豊かに生きていける人に

1. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目

- (1) 新幼稚園教育要領に基づき、カリキュラムの改善を図る。それぞれの学年で経験してほしい活動を育ちや興味に従って考え、子どもの気づきや興味関心を引き出し、主体的な遊びが広がるよう、子ども自身が選択できる場面や環境を整える。
- (2) 幼稚園教育の質の改善を図るために、保育者が研修に参加するなど研鑽を積む。また主体的に自己評価を行うことで自らの保育を振り返り、課題を明確にし、日々の保育に取り組む。
- (3) 保護者の幼稚園教育に対する理解を高めていく。
- (4) 必要とする子育て支援の把握に努め、子育ての悩みを抱える保護者には、共に考える機会を持つと共に、関係機関との連携を取れるようにする。子育てが楽しいものだと感じられるよう、子育て支援に取り組む。
- (5) 自園を多視点で客観的に見直し、職員同士の共通の理解を図り、課題を明確化し改善に努める。

2. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目(1)

- ・ 毎月全体会議を行い、次月の園全体の取り組み目標を明確にし、教職員が共通理解ができるように取り組んだ。学年間の連携を図ることが出来るよう、各学年による取り組み状況をテーマごとに発表しあったり、教職員からの提案によるテーマに基づいて意見交換をするなどし、それぞれが積極的に会議に参加し、意識を高められるよう取り組んだ。
 - ・ 各学年ごとで毎月カリキュラム会議を実施し、子どもたちの発達や興味関心に則して次月の保育が行えるよう話し合い、カリキュラムの改善を行った。
 - ・ 行事においては、子どもたちの現在の様子に基づき、本年度における目標とねらいを明確にし、共通理解を図った。実施後には必ず反省と話し合いの機会を設け、子どもとの取り組みの過程を振り返り、その後のプログラムの改善を行えるようにした。
 - ・ 保育者は全体会、学年別カリキュラムを元に、週案、日案を作成し実践する。その後、実践、反省、課題解決を次への保育にいかし、PDCA サイクルを意識しながら改善に生かした。
 - ・ 一人ひとりの子どもの課題を保育者がとらえ、それぞれの今ある姿からの一步前進を目標に、子どもへの指導をする。また、保護者と保育者がその課題の共通理解をし、子どもとともに取り組めるようにした。
 - ・ 子どもの気付きや興味、関心を引き出し、主体的な遊びが広がるよう、子ども自身が選択できる場面や環境を整えた。そのために、保育者が子どもたちをよく観察し、思いの把握に努めると共に、子どもが自ら興味を持ち取り組めるよう、環境の設定に様々な工夫をした。
 - ・ 子どもがそれぞれの興味や発見、気づきなどを発表し合ったり話し合ったりする時間を持ち、子ども達からの発信を大切にできるようにした。子どもたちの興味や関心が広がるよう、保育者同士も考え話し合う時間を持ち、環境を整えられるように取り組んだ。
- 今後も引き続き、10の姿に繋がっていく教育・保育内容がより深まるように取り組んでいきたい。

評価項目(2)

- ・ 園内研修の他、豊中市私立幼稚園教員研修会、公私立合同研修会、大阪府私立幼稚園連盟教員研修会、全日本私立幼稚園連合会研修会等に参加し、成果を活用した。また、自己の課題や、経験年数に見合った研修会に参加し、その後園内で伝達研修を行い、資料や成果を全職員で共有するなどして教職員の資質の向上を図った。
- ・ 学期末ごとに自己評価シートによる自己評価を行うことにより改善を図るなど、教職員が自己の資質向上に主体的に取り組めるよう努めた。

評価項目(3)

- ・ 新年度に行う、学年別懇談会において年間目標等の説明を行い、保護者がとよなか文化幼稚園の保育の思いを理解し、同じ思いで協力し合って子育てができるようにした。
- ・ 園だより、学年だより、クラスだより等を発信し、園理解や教育・保育や子育ての課題等を保護者と共有できるようにした。
- ・ 参観などだけでなく、クラス会や希望者のお手伝いなど、保護者が普段から気軽に園に来て任意で園の教育・保育に参加できる機会を多く設けた。
- ・ 親子で楽しめる行事を設定するようにした。
- ・ また、子ども達の先生として保育をする機会を持つことで、子ども理解・園理解を図れるようにし、教育者側の視点で幼稚園教育を捉え、教員の取り組みの理解を図ることのできるような機会を設けた。

評価項目(4)

- ・ 子育てにおける保護者の悩みや、必要とする子育て支援の把握に努める。また、子育ての悩みを抱える保護者には、共に考える機会を持つと共に、関係機関との連携を取れるようにした。園内ではカウンセリングを月2回行い、活用してもらえるようにした。
- ・ 保護者参加の行事に関しては、PDCAのCの部分に保護者アンケートを組み込み、内容を真摯に受け止め、改善できるように取り組んだ。
- ・ 地域の親子が憩える子育て支援事業を行った。(ママカフェ・プレイフルガーデン)

評価項目(5)

- ・ 保護者のアンケートなどから、取り組める事柄に対して話し合い改善を図れるようにした。
- ・ 園外の研修等で、他園教職員との意見の交換をし、教職員が客観的に自園について考えられる機会を持った。

3. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・ 新幼稚園教育要領に基づき、これまでのカリキュラムの改善を図ることはできたが、今後も継続して、環境の変化に対応したカリキュラムづくりを実践していきたい。また、これまで以上に子どもの気づきや興味関心を引き出し、主体的な遊びや学びが広がるような保育環境を整えていきたい。
- ・ 幼稚園教育の質の改善を図るために、教諭の研修に参加する時間を確保し、主体的に自己評価を行ない、課題を明確にし、日々の保育の改善に取り組める学び続ける組織への構築を行いたい。
- ・ 保護者に対しては、とよなか文化幼稚園が掲げる「ライフロングキンダーガーデン」の基礎を

構築し、保護者の幼稚園教育に対して、さらなる理解を高める事業を展開していきたい。

- また、地域に対しては、ママカフェや、プレイフルガーデン等の子育て支援事業を拡張し、必要とする子育て支援の把握に努め、子育てを楽しみ、子育てが楽しいものだと感じられるような支援に取り組んでいきたい。
- 地域で活動する様々人々や団体と交流し、自園を多視点で客観的に見直すことが出来るよう改善に努めていきたい。